

# こくろう秋田

## 国労への信頼を勝ち取り 組織拡大へ



国労秋田  
地本は2月  
26日、秋  
田市「くら  
しと労働会  
館」におい

### 委員長挨拶(要旨)

執行委員会を代表し、ひと  
言ご挨拶をさせていただきます。

最重要課題である組織の強  
化・拡大は、今後を考えると  
待ったなしの状況になってい  
ます。本部は「各機関1名を  
確実に拡大し、全国で50名



佐藤浩一 地本委員長

の拡大を目指す。」としてい  
ます。秋田地本もそれに応え  
るために、より一層の奮闘が  
求められています。  
組合員たった一人の職場で  
過半数代表者選挙に立候補し、  
地道に国労加入を訴えたり、  
団体交渉で業務部長として働  
きやすい職場実現に向け奮闘  
している姿を地本全体で確認  
し、国鉄世代はさらにバック  
アップ体制を築き、組織拡大  
に大きく足を踏み出して今後  
の国労運動と組織を継承・発  
展させなければなりません。  
会社は期末手当削減、定期  
昇給のカット等、人件費の抑  
制を進め、社員に対し犠牲を  
強いています。

て第124回拡大地方委員会を  
開催しました。

高橋毅副委員長の開会あいさ  
つで始まり、構成員の出席数が  
大会成立要件に達している事を  
確認し、議長には村越委員が就



国鉄労働組合  
秋田地方本部

秋田市中通  
7-2-21  
☎018-832-3775

発行責任者  
佐藤浩一

編集責任者  
編集部



任しました。  
議長あいさ  
つでは「エル  
ダー終了し3  
回目の契約と  
なる。議長は何回目か分からな  
いが無事務めたい」。

佐藤浩一 地本執行委員長のあ  
いさつは別掲。  
国労東日本からは、渡辺信之  
東日本執行委員があいさつ。  
『ロシアのウクライナ侵攻をみ

会社は人(ヒト)の生活にお  
ける豊かさを起点としての駅  
の在り方を変革し「交通の拠  
点」という役割を超えて駅を  
つながる「くらしのプラット  
ホーム」へと転換するとして  
いますが、それに逆行し推進  
してきたのが「無人化」「機  
械化」「自動化」です。駅の  
特性に合わせ臨機応変に対応  
できるかは、今後の私たち国  
労の働きが大きな役割を担っ  
ており、それと共に地域や利  
用者の皆さんの声も反映でき  
るよう、地域での共闘運動の  
取り組みを進めていくことが  
重要です。  
労働組合は、働きやすい会  
社、職場を作るために運動と



の要望  
として  
重く受  
け止め  
る」と  
の回答  
があっ

ると戦争はいけないと改めて認  
識する。日本は憲法九条がある  
ので誰一人を殺していない。選  
挙で憲法を守る政党の躍進を。  
春闘は職場や地域で今の労働  
条件で良いのかを問うものでは  
ない。本社社友会ニュースに「物  
価高騰により生活は大変、社員  
や家族にとって定期昇給の確保  
は重要。」これに対し「社友会

共に政治活動を切り離すこと  
はできません。統一地方選挙  
では、自公政権が進めてきた  
格差社会、国民不在の政治か  
らの転換のため国労方針に基  
づく候補者の勝利に向けて全  
力を挙げていきたいと思います。  
私たちには組織の展望を切  
り開くための条件は確実に存  
在します。必要なのは、職場  
や地域で抱えている問題を一  
緒に考え、悩み、寄り添うこ  
とです。労働条件改善などの  
取り組みを通じて国労への信  
頼を広げる運動づくりにかかっ  
ています。委員の皆さんの真  
摯な討論をお願いし、執行委  
員会を代表しての挨拶といた  
します。



会組合員14  
名中現職は2  
名。お客さま  
の苦情が飛躍的に増えている。



委員からの発  
言では  
①堀井委員  
(秋総合車セ)  
組織の組織の  
実態や、東北  
本部になって初めての業務提案  
について話されました。

②吉田進委員(秋田連合分会)

工場関係は総合車セへ組織変更  
となり、今度  
工務区と一緒  
になった。分  
会組合員14  
名中現職は2  
名。お客さま  
の苦情が飛躍的に増えている。

会社は社員を攻め立てる。さらにミスが増える。個人の責任として対策を立てさせられている。退職日を楽しみにしている社員さえいる。営業統括センターは羽後本荘駅を加えて再編となる。40キロ離れている。何かあれば最大90キロ離れた駅に駆けつけていかなければならなくなる。eチケットは難しい。複数人数で予約していた一部を発売したため他の人が発売できない。5月にSuicaエリアが拡大される。さらに問題が出てくる心配。



③伊藤宏委員(北奥羽連合) L i v i t 鷹ノ巣駅勤務。分会は

6職場11名。つがる運輸区以外は1名ずつの職場。情報の発送は一年間に20回個人宅へ郵送している。バス代行案内を東能代統括センターに依頼したが誰も来ない。仕方なく勝手に勤務。結果的に超勤対応で処理。こくみん共済への変更で共済手数料が無くなる。地本から財政支援は出来ないか？お客さまからの苦情多い。案内に避ける時間が無い、お客さまからはもつと寄り添って欲しいとの言葉。実態は一人勤務で締切改札等が忙しく対応できない。

今回のダイヤ改正で時刻表を会社で作らないのは問題。 ◆宇佐美書記長 こくみん共済への移管に伴い手数料が国労には来ない。執行委員会で議論する。 ◆宮崎業務部長(会社側もお客さまの苦情が多いという認識、支社長から工務関係にも感動を与える対応して欲しいと言われたが?) ◆柴田哲委員(横手連合) 横手の雪まつり開催中に駅の会議開催、会社は何も考えていないことに怒り。



「融合」ということで他職場に見習いを付けているが、本人にやる気はない。管理職は実務経験が少なくレベルがあまりに低い。このままでは秋田支社が持たないのでと危惧。冬期で湯沢勤務しているが、エリアスタッフは年上で物を言えない。ダイヤ改正で横堀駅が無人数化されトレが使用禁止になる。各駅で作業するので大変不便となる。

◆宇佐美書記長集約(職場の声が一番。ダメかもしれないけど上司に言い続けていくしかない。集約内容は別掲。 ◆宇佐美書記長2件の提案 その1、現在6つの職能別協議会があるが、秋田地本職能別協議

会(仮称)に統一したい。次回大会での承認を頂く方向で各協議会で検討を。 その2、旅費支給規則の改定。本部・東日本からの旅費は削減されている。地本から補助する形にしたい。

会(仮称)に統一したい。次回大会での承認を頂く方向で各協議会で検討を。 ◆宇佐美書記長集約(職場の声が一番。ダメかもしれないけど上司に言い続けていくしかない。集約内容は別掲。 ◆宇佐美書記長2件の提案 その1、現在6つの職能別協議会があるが、秋田地本職能別協議



宇佐美書記長集約 今春 関係は、経団連でさえ、一賃上げは企業の義務」とまで発言しています。 JR会社は業績不振を理由にこの間、賃金や一時金の抑制を行ってききましたが、その結果入社間もない多くの社員が会社を辞める事態を招いています。また、エールダー雇用になり仕事や責任は変わらないのに賃金は半分以下、そんな現状にモチベーションが保てず職場を去る方もおります。

労働組合の力とは、団結力です。そして、各労組の連帯がそれを更に強固のものとなさせます。昨今の春闘は大企業の労働組合が個別企業主義に陥り、春闘に結集しないため、労働組合の

交渉力低下が春闘破壊に拍車をかけているとの報告もあります。国鉄分割民営化攻撃の狙いが闘う労組の牽引役であった「国労つぶし」であり、その結果が現在の現状です。政府、財界が恐れているのは、国民を巻き込みながら労働者が取り組む春闘「国民春闘」にほかなりません。 企業の一番の財産は人材です。働く者が健康で安全に定年まで働き続けられる、大事にされる社会、世論にしなければなりません。そのためにも、今の政治を国民本位に転換させなければなりません。今年は統一地方選挙があります。地方から民主的革新勢力の拡大に取り組みましよう。組合員には最大限の政治闘争等への取り組みを訴えます。 秋田地本にいる平成採の仲間を増やす取り組みや拡大は停滞しています。今後

(拍手でその2承認) 交運共済からこくみん共済への移行、3月3日必着なので懇意を。提出が無いとコールセンターから連絡あり。 ◆加賀谷章夫執行委員(委員会宣言を読み上げて提案) 拍手で採択。最後は団結ガソリンパローで閉会。

を考れば深刻な状況です。更に頑張つて参りましよう。 国労運動を進める上で組合員自身の健康が第一です。仲間や同僚を思いやり、家族を大切にして国労運動の前進を図りましよう。 ストライキ自体は憲法で認められている労働組合の権利であり労働者の武器です。国労本部、国労東日本本部には、会社側へのスト通告を行うなど、闘う姿勢を訴えております。



客貨一体となった闘いの強化を図り春闘に取り組み今まさに国民春闘を闘っている中央、東日本本部を地本から支える為にも、国労秋田の全組合員の総団結を訴えと共に、国労秋田地本執行部はその先頭に立ち奮闘する決意を表明して書記長集約と致します。

秋田地本にいる平成採の仲間を増やす取り組みや拡大は停滞しています。今後

秋田地本にいる平成採の仲間を増やす取り組みや拡大は停滞しています。今後

